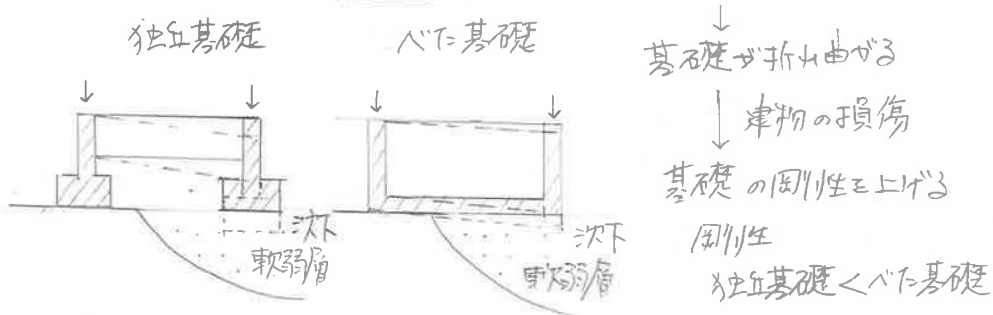


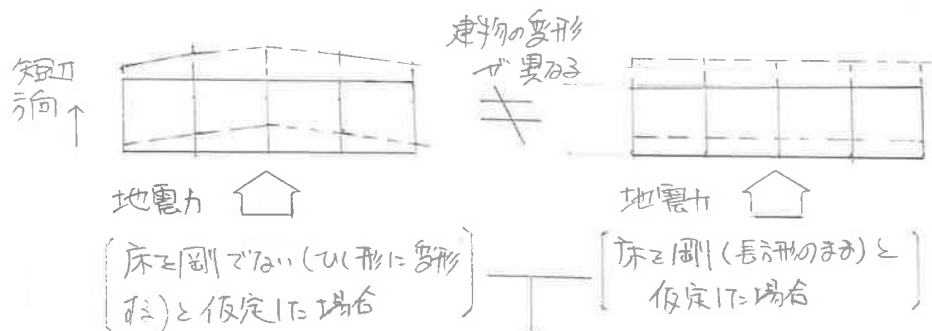
平成29年NO.24 鉄筋コンクリート造の構造計算

1. 基礎形式と不同次下 → 独立基礎の剛性の高いバテ基礎を用いる事で建物の損傷を発生しにくくできる
2. 平面形状が細長い建築物 → 床を剛と仮定する場合、実情に即した設計が必要
3. 床組の振動による使用上の支障がない事の確認 → 床組を支えている部材のためめの検討が必要
4. 片持スラブの設計 → 長期荷重に加え地震時の上下振動を考慮する必要がある

① 基礎形式と不同次下 ^{とは} → 建築物が不均等に沈下すること



② 平面形状が細長い建築物 → 床の剛床の仮定による結果が異なる



③ 床組の振動による使用上の支障がない事の確認

→ 床を支えている部材のためめの検討

部材の検討

- ・ 強度の検討 → 断面の応力度を検討 ×
- ・ 使用上の検討 → 部材のためめを検討 ○



④ 片持スラブの設計

